

神奈川県考古学会

考古かながわ 第62号

神 奈 川 県 の 土 偶

日 本 大 学 鈴 木 保 彦

土偶は、石棒とならぶ縄文時代の代表的な呪的形象（呪物）であり、草創期から晩期まで一貫して制作されました。そうした意味で、土偶は縄文文化を考える上で欠くことのできない重要な遺物と言えます。

かつて、「土偶とその情報研究会」では、土偶の全国的な調査と資料集成を行ったことがあります。その成果は、1992年の『国立歴史民俗博物館研究報告』第37集に掲載されておりますが、この時には、島根・徳島・沖縄県を除く44都道府県の土偶を調査し、合計1,376遺跡、10,683点の土偶を集成しました。神奈川県は筆者が担当しましたが、48遺跡155点でした。現在では、最も出土例の多い相模原市内だけでも21遺跡から162点が検出されており（千葉毅 2014 「神奈川県の土偶－相模原市域－」『第11回土偶研究会 八戸市大会資料』土偶研究会）、1992年の集成から出土遺跡も出土点数も倍増していると考えられます。

しかし、それでも神奈川県は全体としてみれば、土偶の検出例の少ない地域であり、草創期、早期の土偶は出土しておらず、中期と後期のものが大多数となります。土偶の出土が少ないことは、特に県中央部の相模野台地で顕著です。この一方、土偶が多く検出されているのは、相模原市など多摩丘陵や多摩丘陵に隣接する地域で中期のものとなります。これらの遺跡は、行政区画上神奈川県に属しますが、地理的には多摩丘陵のエリア内といえます。縄文時代における土偶を使用した呪術のありかたは、近接した地域でも異なるものがあったことを窺わせます。

神奈川県内の土偶は、中期のものが最も多く、それも小形で単純な形態の加曽利E式期のいわゆる「バンザ



神奈川県教育委員会蔵

写真1 秦野市菩提横手遺跡出土 中空土偶

イ土偶」が大多数です。また、中期のものに次ぐ出土量の後期の土偶では、「筒形土偶」が多いことが神奈川県の特徴といえます。「筒形土偶」は、後期前葉の堀之内式期のもので手足が省略され、頸部以下が円筒形を呈する土偶であり、それ自体で安定的に自立します。数多い縄文土偶の中でも自立するものは少なく、儀礼において、ものの上に立てて安置し、顔面が斜上方を向く土偶と縄文人とが対峙する場面が想定されます。

昨年、秦野市菩提横手遺跡から「筒形土偶」と「ハート型土偶」およびその系譜をひく「仮面土偶」の両者の特徴を兼ね備えた、高さ約25cmの大形の中空土偶が出土し、注目されました。この土偶は、頭・頸・胴体・手足の五体が表現され、立体的に制作されたものであり、脚部が大きく作られ、安定的な形態を呈し、自立するように制作されています。これに類似する土偶は、綾瀬市上土棚遺跡で一例検出されていましたが、顎から上の顔面部・頭部が欠損しており、全体像については不明でした。

縄文土偶の型式は、70 位あると考えられておりますが、管見による限り菩提横手遺跡出土の土偶は、新型式と考えられます。数ある縄文土偶の中でも自立する大形の中空土偶は限定的であり、関東・中部地域でも出土例はきわめて少ないものです。このような全身像が明らかなのが学術的調査によって出土したことは重要です。

総会報告

2019(令和元)年5月11日土曜日に、2019年度の神奈川県考古学会総会が神奈川県埋蔵文化財センター3階研修室にて開催されました。総会終了後には、かながわ考古学トピックスを開催いたしました。参加者は30名、総務が司会を務め、岡本会長からの挨拶に続き、会則に則り岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の議事が総会にかけられました。

議事1 2018年度事業報告

議事2 2018年度収支決算報告

議事3 2019年度事業計画（案）

議事4 2019年度収支予算（案）

議事5 役員の改選について

以下に、内容を報告いたします。

議事1 2018年度事業報告

（総務） 2018年度総会を2018年5月12日（土）に神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。同日午後、かながわ考古学トピックス2019を開催、宇都洋平氏と東真江氏による、2本の発表が行われた。

年度中に隔月で計6回の役員会及び幹事会を開催。

（会誌） 『考古論叢神奈河』第24集・第25集は年度内刊行、第26集・第27集の編集刊行準備作業。

（連絡誌） 『考古かながわ』第60号を2018年10月に、第61号を2019年1月に発行。

（講座） 2019年1月20日に平成30年度神奈川県考古学会講座『月見野遺跡群発掘調査から50年』を開催（於：大和市文化創造拠点シリウスサブホール。参加179名。資料集『月見野遺跡群発掘から50年』を作成し当日に有償にて配布。

（発表会） 2018年11月18日に『第42回神奈川県遺跡調査・研究発表会』を開催（於：秦野市堀川公民館多目的ホール）。参加165名。資料集『第42回神奈川県

また、先端が前方に突き出てブーツ状を呈する脚部形態も特徴的なものです。現在国宝に指定されている縄文土偶は5点ありますが、この土偶はそれらに次ぐ重要文化財クラスの優品と評価することができます。

遺跡調査・研究発表会発表要旨』刊行

（見学会） 見学会を計3回開催。第1回は2018年7月21日に「発掘された日本列島2018展」（於：東京都江戸東京博物館）を見学、参加22名。第2回は2018年11月24日に「企画展 出土漆器の美」（於：鎌倉歴史文化交流館）参加6名。第3回は2019年2月16日に、かながわの遺跡展「潮風の考古学」見学（於：神奈川県立歴史博物館）参加者25名。

（ホームページ） 公式ホームページ「Web版考古かながわ」の管理運営。

（刊行物書籍のPDF化） 保管期間が経過した本会刊行物について、著作権処理が済んだ刊行物をホームページ「全国遺跡報告総覧」上で公開（2019年3月31日現在、49冊を公開）。

議事2 2018年度収支決算報告

2018年度の収支決算についての報告が行われた。同収支決算について、2019年4月8日に当会監事鈴木次郎・西川修一の両氏が会計監査を実施、金銭出納簿、証拠書類等を精査し預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されている旨の報告がなされ、拍手を以て承認された。

議事3 2019年度事業計画（案）

（総務） 2019年5月11日（土）に神奈川県埋蔵文化財センターにて総会を開催。これ以降、年度内に隔月で役員会・幹事会を交互に計6回開催予定。

（会誌） 『考古論叢神奈河』第26集～第28集を2019年度中に刊行予定。

（連絡誌） 『考古かながわ』第62号・第63号を発行予定。

（講座） 2019年度内開催予定。

（発表会） 第43回神奈川県遺跡調査・研究発表会を開

催予定。

(遺跡見学会) 県内の発掘調査現場、企画展等の見学会を年3回開催予定。

(ホームページ) Web版「考古かながわ」の運営を継続、フェイスブックの運用を開始。

(刊行物書籍のPDF化) 保管期間が経過した本会刊行物について、著作権処理が済んだ刊行物をホームページ「全国遺跡報告総覧」上で公開。

議事4 2019年度収支予算案

前年度の実質出資を元に各部会の予算額を編成。議事

3の事業計画案とともに2019年度の収支予算案が審議され、拍手により承認された。

議事5 役員の改選について

任期満了が9名、新役員候補が5名。拍手により承認された。

その他

総会開催日の午後はかながわ考古学トピック 2019が開催され、鈴木保彦氏と山田仁和氏を講師に迎え、土偶をテーマに2本の発表が行われた。

議事2 2018年度収支決算報告・会計監査報告 2018年度収支決算書

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	858,000	771,000	▲ 87,000	本年度会費 3,000 × 225 名 = 675,000 次年度会費 3,000 × 3 名 = 9,000 旧年度会費 3,000 × 29 名 = 87,000
機関誌等 売り上げ	250,000	336,900	86,900	発表会要旨 97,100 (内訳) 39回要旨(一般) 800 × 2 部 = 1,600 40回要旨(会員) 500 × 2 部 = 1,000 40回要旨(一般) 1,000 × 5 部 = 5,000 41回要旨(一般) 1,000 × 7 部 = 7,000 42回要旨(会員) 500 × 165 部 = 82,500
				考古論叢 65,900 (内訳) 論叢21(一般) 1,000 × 1 部 = 1,000 論叢22(一般) 1,000 × 2 部 = 2,000 論叢23(一般) 1,000 × 14 部 = 14,000 論叢23(委託0.8) 800 × 2 部 = 1,600 論叢23(会員) 500 × 3 部 = 1,500 論叢24(一般) 1,000 × 29 部 = 29,000 論叢24(委託0.8) 800 × 21 部 = 16,800
				講座要旨 173,900 (内訳) 講座時空(委託0.8) 400 × 1 部 = 400 20周年記録集(一般) 1,000 × 3 部 = 2,500 2015講座縄文装い(一般) 1,000 × 2 部 = 2,000 2017講座敷石(会員) 500 × 9 部 = 4,500 2017講座敷石(一般) 1,000 × 40 部 = 40,000 2018講座敷石(委託0.8) 800 × 10 部 = 8,000 2018講座月見野(会員) 500 × 109 部 = 54,500 2018講座月見野(一般) 1,000 × 62 部 = 62,000
雑収入	500	623	123	預金利子、図書送料 他 623
繰越金	2,716,606	2,716,606	0	2,716,606
合計	3,825,106	3,825,129	23	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明	予算額	決算額
事務局費	129,000	101,689	▲ 27,311	連絡費	60,000	57,944
				事務費	10,000	415
				行事開催費	27,000	25,150
				旅 費	30,000	15,264
				手数料	2,000	2,916
会誌費	1,608,000	947,064	▲ 660,936	連絡費	7,000	4,413
				事務費	1,000	12,300
				印刷費	1,600,000	930,351
連絡誌費	170,000	142,455	▲ 27,545	連絡費	5,000	5,260
				事務費	15,000	12,648
				印刷費	150,000	124,547
発表会費	185,000	175,071	▲ 9,929	連絡費	33,000	15,100
				事務費	2,000	3,361
				印刷費	120,000	129,600
				行事開催費	15,000	27,010
				謝 礼	15,000	0
講座費	250,000	256,481	6,481	連絡費	22,000	32,434
				事務費	3,000	1,979
				印刷費	150,000	212,544
				行事開催費	30,000	9,524
				謝 礼	45,000	0
見学会費	73,000	26,660	▲ 46,340	連絡費	53,000	22,320
				事務費	5,000	0
				行事開催費	5,000	4,340
				謝 礼	10,000	0
ホームページ 運営費	25,000	20,200	▲ 4,800	事務費	5,000	0
				謝 礼	0	0
				借上費	20,000	20,200
PDF化	9,500	0	▲ 9,500	連絡費	8,000	0
				事務費	1,500	0
				印刷費	0	0
予備費	1,375,606	3,130	▲ 1,372,476		1,375,606	3,130
合 計	3,825,106	1,672,750	▲ 2,152,356			

* 収入(3,825,129 円) - 支出(1,672,750 円) = 次年度繰越金(2,152,379 円)

会計監査報告

2018年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2019年4月 8 日

監 事

鈴木 次郎

西川 修一



議事4 2019年度収支予算

2019年度収支予算(案)

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	834,000	858,000	▲ 24,000	会費 3,000 × 278 名 = 834,000 会員数284名(顧問2名含)。うち4名は前年度納付済
機関誌等 売り上げ	300,000	250,000	50,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売上
雑収入	1,000	500	500	預金利子/雑収入等
繰越金	2,152,379	2,149,939	2,440	
合計	3,287,379	3,258,439	28,940	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	129,000	129,000	0	連絡費 60,000 総会案内状、会費納入依頼等発送 事務費 10,000 会議資料作成、既刊行物発送、消耗品購入 行事開催費 27,000 総会・トピックス、役員会等会場使用料 旅費 30,000 役員会等会議交通費(2018年度分) 手数料 2,000 振込手数料
会誌費	1,417,000	1,608,000	▲ 191,000	連絡費 5,000 事務連絡等の送付 事務費 2,000 会議資料作成、消耗品購入 印刷費 1,410,000 考古論叢26～28集発行・発送
連絡誌費	170,000	170,000	0	連絡費 5,000 事務連絡等の送付 事務費 15,000 会議資料作成、消耗品購入 印刷費 150,000 連絡誌62号・63号の発行
発表会費	182,000	185,000	▲ 3,000	連絡費 25,000 事務連絡等の送付 事務費 2,000 会議資料作成、消耗品購入 印刷費 120,000 第43回発表要旨発行、チラシ印刷および発送 行事開催費 20,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 謝礼 15,000 外部講師依頼 15,000円×1人
講座費	258,000	250,000	8,000	連絡費 20,000 事務連絡等の送付 事務費 3,000 会議資料作成、消耗品購入 印刷費 170,000 講座要旨の発行、チラシ印刷および発送 行事開催費 20,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 謝礼 45,000 外部講師依頼 15,000円×3人
見学会費	73,000	73,000	0	連絡費 53,000 案内状等送付 事務費 5,000 会議資料作成、消耗品購入 行事開催費 5,000 博物館入館料等 謝礼 10,000 協力者謝礼
ホームページ 運営費	25,000	25,000	0	事務費 5,000 会議資料作成、ソフトウェア・消耗品購入 謝礼 0 協力者謝礼 借上費 20,000 サーバー使用料
PDF化	6,500	9,500	▲ 3,000	連絡費 5,000 事務連絡等の送付 事務費 1,500 会議資料作成、消耗品購入
予備費	1,026,879	1,375,606	▲ 348,727	
合計	3,287,379	3,825,106	▲ 537,727	

Facebook 始めました。会のイベント情報を発信しています！



公式 HP「考古かながわ」よりリンクあり
フェイスブックのアドレスはこちらです↓↓
<https://www.facebook.com/koukokanagawa/>

平成 30 年度第3 回見学会参加記
「神奈川の遺跡展
—潮風と砂の考古学—」に参加して
千色 出

2019 年 2 月 16 日に神奈川県立歴史博物館にて開催された、かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」の見学会に参加しました。神奈川県考古学会の3 回目の見学会は例年 このかながわの遺跡展の見学となっていますが、かながわの遺跡展は、神奈川県内の発掘資料を中心に、年ごとに様々な時代やテーマに沿って開催されていて、毎年新たな発見があります。今年は砂丘や砂嘴に残された「砂の遺跡」をテーマとした展示でした。

見学会は、県立博物館のロビーに集合し約 20 名の参加者全員での記念撮影からスタートしました。展示解説は神奈川県教育委員会の久我谷溪太氏にいただきました。本展示は5 部構成で、まず、導入部分である「砂の遺跡のあれ・これ・それ」では、展示の趣旨説明と砂丘や砂嘴などの地形の基礎知識の解説から始まり、「砂の遺跡」の土地利用のあり方について、解説していただきました。また、1970 年代から始まる分布調査やその後の開発に伴う発掘調査により「砂の遺跡」の調査が進められてきたことについても紹介されていました。第 2 部以降は主に時代ごとに区分しつつ、各時代の土地利用の特徴にあわせたテーマにより展示が構成されていました。「湘南砂丘に生きる！」と題された第 2 部は、縄文時代から海岸線の後退により新たに形成された砂丘地帯での縄文時代から弥生時代の集落跡についての展示で、「海の港・川の港」と題された第 3 部では、古墳や古代官衙に関連する遺跡を中心に水上交通というテーマでの展示でした。続く第 4 部の「港都・鎌倉」では、墓域などの祭祀の場、様々な産業や物流という側面から鎌倉の砂丘地帯を紹介しています。最後に「むすんで、ひらいて」と題して、砂丘地帯での小田原城の土塁について、外国人居留地が設置された横浜の「砂の遺跡」を紹介して結びとなります。

全体の解説が終わった後の質疑応答の際には参加者の皆様から解説していただいた久我谷氏にたくさんの質問が寄せられていました。多くの展示解説では遺構

や遺物についての質問がその中心となる傾向があるかと思いますが、砂嘴などの地形についての質問をする方が多く、「地形」という今回の展示のテーマに多くの方が関心をもたれていたことを示していたと感じました。



写真 2 第 3 回見学会の様子

令和 元 年度第 1 回見学会参加記
江戸東京博物館「発掘された日本列島
新発見考古速報 2019」見学会参加記
西野 吉諭

平成 31 年から令和元年に移行したこの年、私事ですが、娘が小学校 6 年生になり、社会科の授業で歴史を学び始めました。そのおかげか、考古学を生業としている父親の仕事に若干の興味をもったようで、本会から送っていただいた速報展見学会の案内状を私に手渡しつつ、一緒に行ってみたいという、うれしい申し出がありました。歴史学、その一分野である考古学を続けてきて、このような喜びに出会える事に感謝しつつ、7 月 13 日（土）に行われた神奈川県考古学会見学会に二人で参加させていただきました。

午後 2 時、集合場所には 11～86 歳という幅広い年代の参加者が集まり、集合写真を撮影して展示会場へと移動しました。

今回の展示は、旧石器時代から近代までの 12 遺跡による速報展示、そして、特集展示Ⅰ『福島の復旧・復興を埋蔵文化財』、特集展示Ⅱ『記念物 100 年』です。文化庁職員の方による展示解説は午後 2 時半から始まり、親しみやすい柔らかい関西弁によるかみ砕いた説明と、

興味深い裏話、さらに見学者への質問などで、大いに盛り上がりました。

展示の中で最も興味深かったのは、入り口に目玉として設置された金蔵山古墳出土の埴輪です。古墳の造り出し部と島状遺構の二カ所で家形埴輪を用いた配置がなされており、そのうち、島状遺構から出土した家形埴輪の内部には、導水施設の表現がなされていました。祭祀を行った場所と考えられているこの様な施設が、そのまま埴輪として表現されて設置されていることがとても興味深く感じられました。ちなみに、娘が一番興味を持ったのは、白神山地東麓縄文遺跡群で展示されていた土偶群です。なかでも、足の指まで表現された足しか遺存していない土偶があり、その大きさは20 cm以上になるもので、全身があれば間違いなく日本最大級になるそうです。全長が赤子くらいになりそうな土偶の脚にとっても驚いていました。

特集展示Ⅰ『福島への復興を埋蔵文化財』では、被災した地域の魅力を改めて伝えとともに、引き続き復興への関心を持っていただくことを目的とした展示が行われていました。様々な時代の遺跡を気軽に見学できる日が来るよう、一人一人がそれぞれの形で復興に参加していくことが大切だと感じました。

特集展示Ⅱ『記念物 100 年』では、大正8年(1919)に文化財保護法の前身の一つ、「史蹟名勝天然記念物保存法」が施行されて100年の節目であることから、日本各地の代表的な史蹟、名勝、天然記念物の展示と、それに関わる各地の取り組みが展示されていました。展示の最後にはクイズコーナーがあり、遺跡や城郭、庭園や自然環境、動物・植物や地質などが、史蹟、名勝、天然記念物のうちどれに分類されるのか、身近に感じられるように工夫されており、楽しく学ぶことができました。



写真3 第1回見学会の様子



第43回神奈川県遺跡調査・研究発表会を開催します！

【日時】2019年10月12日(土) 10:00～16:30

【会場】川崎市高津市民会館 12階大会議室

図書交換会同時開催

入場無料 事前申し込み不要(発表要旨は実費にて頒布)

主催：神奈川考古学会 共催：川崎市教育委員会

後援：神奈川県教育委員会/(公財)かながわ考古学財団

★県内の最新の調査・研究成果の発表と共に、国史跡となった橘樹官衙遺跡群の成果にスポットを当てています。

- 10:10～10:50 横須賀市 船久保遺跡 (株)玉川文化財研究所
- 10:50～11:20 鎌倉市 東正院遺跡 (公財)かながわ考古学財団
- 11:20～11:50 小田原市 久野多古境遺跡第Ⅴ地点 (有)相模考古学研究所
- 13:00～14:15 橘樹官衙遺跡群国史跡指定5周年記念
橘樹郡家跡と影向寺遺跡の最新調査成果― 川崎市教育委員会
- 14:25～14:55 伊勢原市 子易・中川原遺跡 (公財)かながわ考古学財団
- 14:55～15:25 川崎市 塚越古墳 川崎市教育委員会
- 15:25～15:55 茅ヶ崎市 七堂伽藍跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 15:55～16:25 鎌倉市 若宮大路周辺遺跡群 (株)博通

※詳しくは、発表会案内チラシをご覧ください。※開催会場への直接のお問い合わせはご遠慮願います。



— 2019 年度・第 2 回見学会を開催します —

★現代遺産「旧吉田茂邸」とその周辺（城山・切通横穴墓群と大磯町郷土資料館）★

日時：2019 年 10 月 26 日（土）午後 1 時～（解散は午後 3 時の予定）

集合場所：「旧吉田茂邸」受付事務所内 多目的ルーム（大磯町西小磯 418 Tel. 0463-61-4777）JR 東海道線「大磯駅」下車
1・2 番バス乗場 神奈中バス「二宮駅行」・「湘南大磯住宅行」城山公園前下車 徒歩 1 分

費用：入場料 500 円（自己負担となります）…詳細は、見学会チラシをご覧ください。

神奈川県内の秋の考古学イベント Pick up !!

○展覧会

DOKI土器!土偶に青銅器展

—はにわもいっしょに古代のパレード—

2019年10月5日(土)～2020年3月29日(日)

会場：岡田美術館

〒250-0406

神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 493-1

TEL：0460-87-3931

FAX：0460-87-3934

HP：<https://www.okada-museum.com>

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

（入館は 4 時 30 分まで）

休館日：12 月 31 日、1 月 1 日

展示替期間

観覧料：

一般・大学生 2,800円(2,550円)

小中高生 1,800円(1,550円)

※（ ）内は前売り料金。前売券

(JTB レジャーチケット、チケットぴあ)は、主要

コンビニエンスストア、チケットぴあにて販売

○発表会・展示会

調査成果発表会・展示会

2019年9月21日(土)

菩提の土偶展示！

会場：神奈川公会堂 講堂

〒221-0821

神奈川県横浜市神奈川区富家町1-3

発表会時間：午前10時～午後3時30分

展示会時間：午前11時～午後2時35分

※申し込み不要・無料

主催・問い合わせ先：（公財）かながわ考古学財団

TEL:045-252-8689 FAX:045-261-8162

寄贈品コーナー展示

「平塚の遺跡～近年の発掘調査成果～」

8月22日(木)～9月29日(日)

〒254-0041 神奈川県平塚市浅間町12-41

電話：0463-33-5111 FAX:0463-31-3949

開館時間

午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入館料：無料

○講座

小田原北条セミナー2019「小田原の城を学ぶ」 第6回 佐々木健策氏「早川石丁場群と江戸城」

2019年11月20日(水) 午後 6 時 30 分～

午後 8 時

会場：小田原市民会館3階小ホール

小田原市本町1-5-12

定員：300人・申込先着順

参加費：3,000円

（資料全6回分とノベルティ付き）

申込方法：

氏名、住所、連絡先をメール、FAX、郵送で。

募集定員に達し次第終了します。

申込先：

〒250-8555小田原市荻窪300

北条早雲公顕彰五百年事業実行委員会事務局

（観光課）宛

メール：kanko@city.odawara.kanagawa.jp

FAX:0465-33-1286

お知らせ 本年度役員の任期満了に伴いまして、役員の改選がありました。

任期満了★浅賀さん・東さん・古田土さん・鈴木さん・砂田さん・千色さん・横山さん・脇さん・渡辺さん（五十音順）

…6 年間、大変お疲れ様でした。

新役員★新井さん・池田さん・エドワーズさん・児玉さん・穴戸さん・武井さん（五十音順）

…どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

・鈴木先生の菩提の土偶のお話は、新形式の土偶との評価とのことで興味深い内容です。本年は各地で土偶関連のイベントが数多くありますので、会員の皆様は是非足を運ばれてはいかがでしょうか？

・総会報告時の岡本会長のお言葉に、役員の減少に伴い、会の運営をどう行っていくか課題だというお話がありました。実際に、今年度動き出して現実味を帯びてきました。時代に即し、役員と会員の皆様にとってのよりよい形になることを願います。

考古かながわ 第 62 号

発行 神奈川県考古学会 発行日 2019 年 9 月 14 日

編集 連絡誌部会：工藤・西田

印刷 (有) 湘南グッド

発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之

郵便振替 00240-9-71208

E-mail soumu@koukokanagawa.com

URL <http://www.koukokanagawa.com>